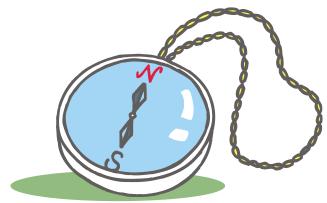


羅針盤



第 7 号

令和6年6月10日(月)

◆ 6月10日は「時の記念日」

本日、6月10日は「時の記念日」です。「時の記念日」は、時間が大切である、ということを全国各地に広げようとしてつくられた日です。では、どうして6月10日なのでしょうか。時刻を初めて知らせた言い伝えに基づく記念日で、日本で初めての時計が鐘を打った日が6月10日であったことに由来しているそうです。古い書物である日本書紀によると、671年4月25日に天智天皇が「漏刻（ろうこく）」と呼ばれる水時計を建造し、鐘鼓（しょうこ）によって初めて人々に時刻を知らせたそうで、当時の4月25日を現在の太陽暦に換算した日付が6月10日であることから、この日を「時の記念日」とすることになりました。カレンダーなどには本当にたくさんのさまざまな記念日が載ってはいますが、「時の記念日」はその中でも最初に制定された記念日の一つです。第1回の「時の記念日」は、大正時代の1920年まで遡（さかのぼ）ります。社会の近代化が進んでいた当時は、時間を守ることによる時間の節約や効率化が求められていました。そのような中で、生活の合理化を進めるため、政界の主要な人物たちによって「生活改善同盟会」といったものが組織され、時間を正確に守ることを全国民に広めようという動きが始まります。当時の文部省がこれに呼応する形で、生活改善同盟会との共催による「時の展覧会」が開かれました。同時期の6月10日に東京天文台長の河合章二郎が天智天皇にならって「漏刻祭」を行い、時の大切さを宣伝する運動によって時の記念日が定められることになりました。現在も時間の大切さを伝えるため、天智聖徳文教財団の事業の一環として「時を守る会」が啓発活動をしており、時間を守る標語の募集やポスターの配布などを通じて、時間について見直す運動を今もなお行っています。それでは、なぜ1日は24時間なのでしょうか。また、日本の時刻は何を基準にして決められているのでしょうか。1日を午前と午後でそれぞれ12時間に区切る12進数といったことを考え出したのは、古代のエジプト人です。（古代シュメール文明から受け継いだ説が有力だそうです。）時計や暦がなかった古代は、月の満ち欠けによって歳月を把握していました。月の満ち欠けが1周するのは約30日、それを12回繰り返すと1年になることから、12という数字は時間の区切りとして大切な意味を持っていたと考えられます。古代エジプト人は、シュメール文明から12進数の考え方を学び、時間の区切りに応用したというわけです。そして、1日を昼と夜に分け、さらにそれを12時間ずつに分けたことで、1日が24時間となりました。次に、日本の時刻についてですが、その基準となっているのは兵庫県明石市です。世界の時刻は「標準時」という時刻で統一されています。もともとは、国や地域ごとにそれが定めた「地方時」を利用していました

が、国をまたぐ電信や鉄道の発達に伴って、世界の時刻を統一する必要性が生まれてきました。そこで、1884年にワシントンで開かれた国際子午線会議で、イギリスのグリニッジ天文台を通る子午線が世界の時刻の基準と定めされました。地球の1周である360度を24で割ると15度になることから、経度15度でちょうど1時間の時差が生じます。そのため、日本の標準時を決める際、15で割り切れる東経135度にある兵庫県明石市が基準と定められることになったというわけです。



六月十日